



『読売新聞』と『お母さん業界新聞』。扱う情報や発信者は違っても、未来づくりという目的は同じですね。

老川 児童虐待のニュースが連日紙面をにぎわすようになった頃、子育て相談の電話が編集部に頻りに届きました。乳離れやオムツはずしなどさまざまなことで大勢のお母さんが不安な日々を送っている。これは放っておけないと、専門家や著名人ら30人を集めて「応援団」を結成。全国を回りシンポジウムを開きました。「国境なき医師団」にヒントを得て、隣近所に相談できる人がいないというお母さんたちに、こちらから出向いて悩みを聞いてあげようという企画です。イベントは、綿密な

打ち合わせのもと、託児室におまるまで用意してお母さんたちを迎えました。会場では、マニュアル本で育児不安に陥ったお母さんたちが次々と手を挙げて質問。それを聞いて、「私だけではないんだ」と安心するのです。藤本 あたたい手づくりのイベントだったのです。私は20年間ずっと、お母さんたちを元氣(笑顔)にしたいと、さまざまな活動をしてきました。今こそ、企業も「子育て支援」といいますが、10年前は「子育てと経済は関係ない」と相手にされませんでした。ですから当時の取り組みとしては、先駆的なことだったと思います。

老川 その後「よみうり子育て応援団大賞」を創設。地域の子育て支援団体を表彰するなど、応援団事業は現在も継続しています。週れば、論議委員をしていた1990年には、労働省の諮問機関・婦人少年問題審議会の委員に就任。92年に施行された育児休業制度法制化にも携わりました。藤本 子育てをしてこなかったという懺悔の気持ちもあるのでしょうか(笑)。

● 対談を終えて ●

読売新聞社の社長が、「子育て」を真剣に語られる姿は感動だったが、ごく自然に発した「乳離れ、オムツはずし、おまる…」の言葉も、妙にリアルでうれしかった。そして、やはり血筋だろうか。ジャーナリズムを語る老川さんのお顔は、品格のある武家のお殿様のような。一方で、にこっと笑うお顔は、粹で気のいい魚屋のおっちゃん(?)。どちらが老川さんの素顔なのか…。「企業のトップとしてではなく、ひとりの人間としての夢は何ですか?」と質問すると、恥ずかしそうに「孫とゆっくり遊ぶことかな」と、おじいちゃんのやさしいまなざし。「社長は毎朝、読売新聞以外にどんな新聞を読まれるのですか?」と秘書の方にこっそり尋ねると、「朝日、毎日、日経、産経、東京、報知、デイリーヨミウリです」と。来月からは、『お母さん業界新聞』も入れてもらえるかな。(藤本裕子)



FUJIMOTO YUI

Profile

ふじもと ゆい ●お母さん業界新聞編集長。お母さん大学学長代理兼1年1組。1956年久留米市出身。横浜市在住。全日空客室乗務員として勤務後結婚、3女を出産。子育てをしながら慶應義塾大学経済学部を卒業。89年『トランタン新聞』創刊。95年トランタンネットワーク新聞社設立。20年間、さまざまな子育て支援活動を展開。2008年春「お母さん大学」を開校し、『お母さん業界新聞』を制作・発行。元氣のもと、夢とTUBE。孫2人。

『お母さん業界新聞』は一般紙じゃないから、偏った新聞大いにけっこう。そのほうが面白いよ。



普段の仕事ぶりが大切ですね。藤本 育休中、親は子どもから学び、地域を知ることにもなります。職場復帰後は、こうした子育て経験を十分に生かして活躍してほしいですね。老川 元来、新聞は政治色が濃いものでしたが、読売新聞の場合、1874年の創刊当時、「をみな新聞」(女性新聞)という題号が候補にあがったほど。以来、女性や子どもにもわかりやすく伝えるのが使命とされてきました。暮らしや生活、人生相談にも定評があります。おつしやるように、政治や国際面でも育児経験が生かされるような紙面づくりを心がけていますね。藤本 『お母さん業界新聞』はかなり偏った新聞で、「子育ては素晴らしい」「お母さんはスゴイ」と繰り返して伝えていきます。このご時世、暗いニュースが持つ役割も大きいと考えています。スグ一面を飾るのは仕方ないにしても、「子育ては大変」というネガティブな情報ばかりでは、誰も子どもを産まなくなってしまうし、子どもにあまり読ませたくない記事が多いのも気になります。老川 新聞社としては、経営的にも非常に厳しい現実の中で、今後も読者のニーズに合わせて、生活に密着した情報を伝えていけたらと思います。また、昨年、親子で新聞を読んでもらおうという狙いでスタートした「ポケモン企画」など、さまざまな企業努力も続けていきます。藤本さんの『お母さん業界新聞』の偏りは大いにけっこう。一般紙ではないのですから、とことんこだわったほうがいい。物質的なこの時代、内面的な心の問題が大切ですね。心を育てるには、新聞が持つ役割も大きいと考えています。我々も、今以上に信頼される『読売新聞』を目指したいと思っています。藤本 私も微力ながら、お母さんたちに新聞の大切さを伝えていきたいと思っています。最後に藤本さんたちへ、一言メッセージをお願いします。老川 人はみな、つい自分だけがうまくいかないかのような錯覚を起こしがちです。しかし、一休さんの言葉に「なるような言葉があります。悩みや困難など、いろいろな経験を積んで人は大きくなる。今この瞬間を、しっかりと生きてほしいですね。藤本 母親だけではなく、すべての人に共通する、深いメッセージですね。私も心して生きていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。

テレビやネットで十分と考える人も多いが、実はそれが、子どもの成長にとって、とても大きなダメージを与えているのです。ぼくら子どもの頃は、家に新聞があるのは当たり前。「お父さん、食事のときくらい、新聞はやめてください!」なんていう会話が合ったものです。でも今はみな忙しく、食事も一人ひとり。新聞を中心にするという話しながら、食卓を囲むという光景がありません。藤本 お母さんは朝から晩まで子育てに追われ、自分の時間がありません。子どもを産んだら、新聞を読まなくなるといった人も多々います。老川 テレビやケータイ、ネットですと十分と考える人も多いが、実はそれが、子どもの成長にとっても大きなダメージを与えています。企業が嘆いているのは、優秀な人材なのに、営業ができない、人とコミュニ

子どもを育てる母親だからこそ、社会のさまざまな事柄や状況を知らなければなりません。それに、いくつになっても学びです。新聞をめぐると、新しい出会いや刺激がたくさんありますね。老川 新聞で視野を広げる。そこから事実を読み取り、想像力をふくらませて自分なりの考えを持つこと。それが人間の一番の成長のもとだと思います。藤本 具体的なにはどのような企画ですか。老川 児童虐待のニュースが連日紙面をにぎわすようになった頃、子育て相談の電話が編集部に頻りに届きました。乳離れやオムツはずしなどさまざまなことで大勢のお母さんが不安な日々を送っている。これは放っておけないと、専門家や著名人ら30人を集めて「応援団」を結成。全国を回りシンポジウムを開きました。「国境なき医師団」にヒントを得て、隣近所に相談できる人がいないというお母さんたちに、こちらから出向いて悩みを聞いてあげようという企画です。イベントは、綿密な

打ち合わせのもと、託児室におまるまで用意してお母さんたちを迎えました。会場では、マニュアル本で育児不安に陥ったお母さんたちが次々と手を挙げて質問。それを聞いて、「私だけではないんだ」と安心するのです。藤本 あたたい手づくりのイベントだったのです。私は20年間ずっと、お母さんたちを元氣(笑顔)にしたいと、さまざまな活動をしてきました。今こそ、企業も「子育て支援」といいますが、10年前は「子育てと経済は関係ない」と相手にされませんでした。ですから当時の取り組みとしては、先駆的なことだったと思います。

老川 それもありますね。藤本 読売新聞社の次世代育成支援対策について教えてください。老川 2008年4月に厚労省の認定を受け「くるみんマーク」を取得しました。女性の定期採用は1980年代から本格化、現在は新入社員3割程度が女性です。藤本 「新聞社」男の職場という印象はかなり薄れているのです。でも女性は、結婚や出産の時期をどうするかという問題もありますね。老川 女性の育児休業制度の取得率は9割を大きく超え、また男性の取得も14人と、年々増えています。この4月からは、東京駅前新設される託児所と法人契約をし、8人分を確保しました。また妻の出産に際し、夫にも配偶者出産特別有給休暇(5日間)をとることを推進しています。藤本 世間では「ワークライフバランス」を推進しながら、制度はあっても、取得するのは難しい現実もありますね。老川 男女を問わず、育児休業をとる場合、同僚や上司の理解やサポートが必要になります。人間関係はもちろんです。人間関係はもちろんです。

スグ一面を飾るのは仕方ないにしても、「子育ては大変」というネガティブな情報ばかりでは、誰も子どもを産まなくなってしまうし、子どもにあまり読ませたくない記事が多いのも気になります。老川 新聞社としては、経営的にも非常に厳しい現実の中で、今後も読者のニーズに合わせて、生活に密着した情報を伝えていけたらと思います。また、昨年、親子で新聞を読んでもらおうという狙いでスタートした「ポケモン企画」など、さまざまな企業努力も続けていきます。藤本さんの『お母さん業界新聞』の偏りは大いにけっこう。一般紙ではないのですから、とことんこだわったほうがいい。物質的なこの時代、内面的な心の問題が大切ですね。心を育てるには、新聞が持つ役割も大きいと考えています。我々も、今以上に信頼される『読売新聞』を目指したいと思っています。藤本 私も微力ながら、お母さんたちに新聞の大切さを伝えていきたいと思っています。最後に藤本さんたちへ、一言メッセージをお願いします。老川 人はみな、つい自分だけがうまくいかないかのような錯覚を起こしがちです。しかし、一休さんの言葉に「なるような言葉があります。悩みや困難など、いろいろな経験を積んで人は大きくなる。今この瞬間を、しっかりと生きてほしいですね。藤本 母親だけではなく、すべての人に共通する、深いメッセージですね。私も心して生きていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。

スグ一面を飾るのは仕方ないにしても、「子育ては大変」というネガティブな情報ばかりでは、誰も子どもを産まなくなってしまうし、子どもにあまり読ませたくない記事が多いのも気になります。老川 新聞社としては、経営的にも非常に厳しい現実の中で、今後も読者のニーズに合わせて、生活に密着した情報を伝えていけたらと思います。また、昨年、親子で新聞を読んでもらおうという狙いでスタートした「ポケモン企画」など、さまざまな企業努力も続けていきます。藤本さんの『お母さん業界新聞』の偏りは大いにけっこう。一般紙ではないのですから、とことんこだわったほうがいい。物質的なこの時代、内面的な心の問題が大切ですね。心を育てるには、新聞が持つ役割も大きいと考えています。我々も、今以上に信頼される『読売新聞』を目指したいと思っています。藤本 私も微力ながら、お母さんたちに新聞の大切さを伝えていきたいと思っています。最後に藤本さんたちへ、一言メッセージをお願いします。老川 人はみな、つい自分だけがうまくいかないかのような錯覚を起こしがちです。しかし、一休さんの言葉に「なるような言葉があります。悩みや困難など、いろいろな経験を積んで人は大きくなる。今この瞬間を、しっかりと生きてほしいですね。藤本 母親だけではなく、すべての人に共通する、深いメッセージですね。私も心して生きていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。

スグ一面を飾るのは仕方ないにしても、「子育ては大変」というネガティブな情報ばかりでは、誰も子どもを産まなくなってしまうし、子どもにあまり読ませたくない記事が多いのも気になります。老川 新聞社としては、経営的にも非常に厳しい現実の中で、今後も読者のニーズに合わせて、生活に密着した情報を伝えていけたらと思います。また、昨年、親子で新聞を読んでもらおうという狙いでスタートした「ポケモン企画」など、さまざまな企業努力も続けていきます。藤本さんの『お母さん業界新聞』の偏りは大いにけっこう。一般紙ではないのですから、とことんこだわったほうがいい。物質的なこの時代、内面的な心の問題が大切ですね。心を育てるには、新聞が持つ役割も大きいと考えています。我々も、今以上に信頼される『読売新聞』を目指したいと思っています。藤本 私も微力ながら、お母さんたちに新聞の大切さを伝えていきたいと思っています。最後に藤本さんたちへ、一言メッセージをお願いします。老川 人はみな、つい自分だけがうまくいかないかのような錯覚を起こしがちです。しかし、一休さんの言葉に「なるような言葉があります。悩みや困難など、いろいろな経験を積んで人は大きくなる。今この瞬間を、しっかりと生きてほしいですね。藤本 母親だけではなく、すべての人に共通する、深いメッセージですね。私も心して生きていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。